

竿燈について

竿燈とはなんですか？

- 東北三大まつりの一つで、260年以上の歴史をもつ国重要無形民俗文化財です。

竿の大きさはどのくらいですか？

- 大若、中若、小若、幼若の4種類の大きさがあります。

大若...12m、50kg（提灯：46個）

中若...9m、30kg（提灯：46個）

小若...7m、15kg（提灯：24個）

幼若...5m、5kg（提灯24個）

秋田での開催日はいつですか？

- 毎年8月3日～6日です。

竿燈まつりの席はどのようになっているのですか？

- 令和8年度のお申込みは開始しています。

升席（定員6名）28,000円/枱 ※予約締切済

S席 4,500円（中央道壁上ひな壇席）

A席 4,000円（上記以外のひな壇席およびパイプいす席）

B席 3,500円（長いす席）

- 大人、こどもとも同料金。座席を必要としない乳幼児は無料。

秋田竿燈まつり本番の竿燈は何本あがるのですか？

- 約280本の竿燈があがります。

（提灯総数約10,000個です。）

- 38町内、企業・学校を含めると70以上の団体が参加します。

どのような技がありますか？

- 流し、平手、額、肩、腰の5種類の技があります。

竿燈はなぜ燃えないのですか？

- 竿燈の提灯の底に、空気の通りをよくする隙間があり、提灯が大きく揺れると、この隙間から風が入ることです。ろうそくの灯が消えるため、燃え移ることがないのです。

竿燈の起源を教えてください。

- 江戸時代中期「ねぶり流し」「眠り流し」と呼ばれる睡魔払いのお盆行事でした。

昔は夏になると暑さが厳しく、労働もきつく、ついつい眠くなり、その隙に病魔が忍び入り、眠り病に侵されると考えられていたため、その睡魔を退治するために眠り流し「竿燈」を行ったと伝えられています。

竿燈の技（5種類）

竿燈（技）



流し
ながし

次の差し手が縦竹を縦ぎやすいように支える技。二人で竿燈を起こし、利き腕で差し上げたら、次の差し手が縦竹を足す。高く差し上げた手のひらに静止し、親指と人差し指の間から15センチほどずらして支える。



平手
ひらて

高々とかざし上げて見せる、力強く豪快な基本技。二本目の縦竹を足してから、手のひらに高くかざして静止させる。添え手を開いて、利き腕とのバランスを取る。



額
ひなたい

竿を額で支える、首の根っこが据わった重量感あふれる技。利き腕の手のひらに受け、指の間から静かにずらしながら額に乗せる。額に静止させ、両手を大きく開き、足腰をグッと踏ん張る。



腰
はた

かなりの修練が必要な派手な技。利き腕の手のひらに受け持ち上げて静止させてから、指の間からずらして腰に乗せる。上体を程よく横に傾け、両足を程よく開いてバランスを取る。熟練の差し手は扇子で仰ぎながら差すなど、かなり盛り上がる竿燈のクライマックス。



肩
かた

差しやすく、最も早く覚える技。利き腕の手のひらに受け静止させてから、利き腕を曲げないでまっすぐ肩に降ろす。利き腕を高く伸ばし、添え手を低くして、軸足と竿燈を一直線にするのが美しいとされる。



竿燈囃子
かんざり

竿燈の囃子は町中を練り歩く時に奏でる「流し囃子」と演技中の「本囃子」の2種類。五臓六腑に響く勇壮な太鼓と空に抜けるのびやかな笛の音。竿燈囃子がまつりの訪れを告げる。

お囃子